



## 答辞

桜の蕾も膨らみ始め、暖かな日差しに春の訪れを感じる季節となりました。卒業を迎えるにあたりまして、卒業生一同を代表し、ご挨拶を申し上げます。

本来、盛大に挙行されるはずであった学位記授与式が新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策により中止となり、卒業生一同、痛惜に堪えません。

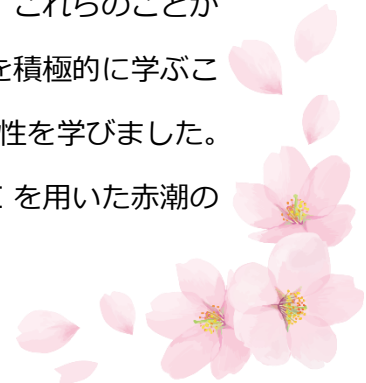
しかし、時の流れを止めることはできず、大切なこの日がやってきました。

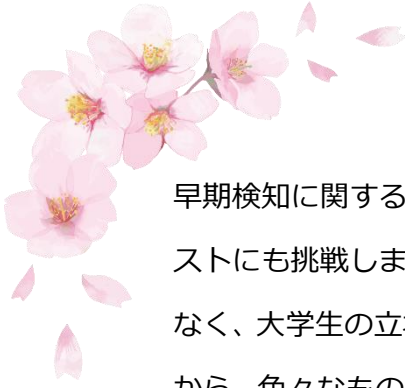
大橋 裕一学長をはじめ、諸先生方、地域のステークホルダーの皆様方、そして保護者の皆様方に、卒業生を代表して厚く御礼申し上げます。また、大橋学長からのお祝いの言葉において、温かい訓辞と激励のお言葉を賜り、卒業生一同、身の引き締まる思いでいるとともに、感謝の念でいっぱいでございます。

春の風が爽やかなこのキャンパスに立ち、卒業という事実と対峙するとき、私たち一人ひとりの胸中には、様々な想いがよぎるに違いありません。愛媛大学で過ごしたこの大学生活は多くの人との出会い、多くの経験、多くの感謝に満ち溢れたものでした。卒業に際して喜びを覚える一方で、友人たちとの別れに寂しさを感じずには入れません。この思いは卒業生一同、同じ気持ちだと思えます。

私は、社会共創学部という新しい学部で、社会実装に向けた実践的な学びと学問の融合に触れ、多種多様な知見を得ることができました。本学部のフィールドワークを中心とした地域社会や他学科学生との交流、サーバントリーダーシップを發揮した地域創生、ものづくり産業・水産業・紙産業をはじめとした幅広い学問に触れ、本当に自分の学びたい学問を見つけることができました。また、学問の融合から自身が取り組む卒業研究に繋がり、4年間で学んだことが身になっていることを実感しました。これらのことから、何事にも苦手意識を持たず、学問の枠にとらわれず、多様な学問を積極的に学ぶことで、様々な人を巻き込む包容力、支援型のリーダーシップ力の必要性を学びました。

この様な学びを通して3年次から、より専門的な学びが始まり、AIを用いた赤潮の





早期検知に関する研究を手掛けました。それを題材とした、いくつものビジネスコンテストにも挑戦しました。その結果、度重なる受賞の栄誉を賜りましたが、それだけでなく、大学生の立場で起業する同世代の人たちから刺激も受け、そこでの出会いと経験から、色々なものの見方や考え方の存在を知りました。私は、こうした貴重な財産を活カ源に、来春より、愛媛大学大学院農学研究科水圏生産学コースで、社会実装、さらには起業化に向けた研究をさらに進めていく所存です。私自身の意思を尊重しながら挑戦する場を与えてくださった産業イノベーション学科の先生方、切磋琢磨しながら支えてくれた学科の学友に感謝すると同時に、本学部産業イノベーション学科の一期生として学べたことを強く誇りに思います。

私たちは今日、この愛媛大学を卒業します。多くの学生にとって、本日は、人生で最後の卒業式であっただけに、諸先生方や職員の皆様、友人や家族に向けて、全員で晴れ舞台に立ち、感謝を伝える機会がなくなったことは大変無念です。しかしながら、今後さらに学問の道で研鑽を積む人も、実社会で職務に邁進する人も皆、明日からの人生の節目においてその都度、愛媛大学の卒業生として誇りを持ち、ここで学んだことの意義をかみ締め、それぞれの分野で活かし、一人ひとりが託された社会的使命を精一杯、果たしていきたいと思ひます。

最後になりますが、今日まで未熟な私たちにいつも適切な助言を与えてくださった諸先生方、様々な場面で私たちを支えてくださった職員の皆様、支え合い励まし合ってきた学友、先輩、後輩の皆様、そして何より、大学にまで通わせてくださり、どのような時も一番近くで支えてくれた家族に、心より御礼申し上げます。様々なカタチで関わって頂きました皆様方のご健康とご多幸、愛媛大学の更なる発展をお祈りし、答辞とさせていただきます。



令和2年3月24日 卒業生総代 社会共創学部産業イノベーション学科

寺田 淑乃

